



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・青木真知子

HP「辻よし子と歩む会」で検索

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず！

議会傍聴して思ったこと

初めて議会の傍聴に行ったのは檜原村の産業廃棄物焼却場建設についての質問をある議員さんがすると知った時でした。もし檜原村に産廃の焼却場が建設されてしまったら水源地が汚染され、その下流のあきる野の川で子供達を安心して遊ばせる事が出来なくなると思い、建設には反対だったので「この問題は他人事ではない、あきる野市ではどのような考え方なのか、あきる野市がどの様に対応していくのか」と思い、初めて傍聴に行きました。

2回目は武蔵五日市駅前開発についての質問を辻さんがするとのことだったので、これも自分の生活に関わる事だと思い関心があったので傍聴に行きました。辻さんの質問を傍聴して、辻さんは質問するために色々な事を調べ時間をかけて準備をしてきたのだと思いました。辻さんは持ち時間の一時間を全部使って質問していました。質問のやり取りを聞いて、開発の進め方などに疑問を持ち、今後も追及して欲しいと思いました。

私は都知事選や市長選など選挙があれば必ず投票に行っていました。また、市の広報などは一通り目を通したりはしていましたが、議会の傍聴には行ったことがありませんでした。しかし、あきる野市に移住をして子育てをするようになって、あきる野市で安心して子供達を育てていけるのかと考えるようになり、あきる野市で起きている事に興味を持ったり、あきる野市に何かしらの形で関わっていきたいという気持ちになり傍聴にも行こうと思いました。議会は平日に行われるので仕事を調整して傍聴に行かなければなりません。これからはもっと積極的に傍聴に行きたいです。また今はネットで過去の議会が見られるのでそちらも使用したいと思います。傍聴に行くと、議員さんのことをもっと深く知ることが出来ると思いました。(S・H 小中野在住)

議会って、誰のもの？

この間、何度となくあきる野市議会の傍聴をしています。こここのところの議員、市長等のやり取りを見ていると、市民不在で‘多数派’を自認している面々の態度は、目に余るものがあります。その‘多数派’がやっている事は自分たちの、そして、その仲間たちの利益追求に走り、一般市民の声を聴く姿勢を全くもって見せようとし、その態度。と言うか、そもそもこの‘多数派’の体質からして、それが出来ないと言ってしまうればそれまでですが……。本当に困ったものです。

今回行われた12月議会でも、その傾向は如実に現れていたと思います。武蔵五日市駅前の再開発事業は、正にその典型と言えるやり方で、中嶋市長とその仲間たちだけでどんどん進めて行っている現実があります。本来ならば、広く一般市民の多くの声を聴きながら進めて行くのが、駅前開発のやり方ではないでしょうか。

さらに、12月議会の一般質問での出来事として、辻議員の質問に対して、中嶋市長が反問権行使と言う愚に出ました。確かに、反問権と言う権利が市長にはあるわけですが、今回の反問たるや、全くもって反問権の体をなしておらず、辻議員に対する嫌がらせ以外の何ものでも無いことは、その場にいた方ならば皆さん感じたのではないかと思います。そもそも、この議会の一般質問というのは、事前通告制になっているわけで、調べる気があれば、時間的に

も十分あったはずで、はなから真面目に対応する気は無かったと言う事が見え見えでしたね。

今の、この‘多数派’とそれに追従する勢力支配が続く限り市民の側に寄り添った改革など、夢のまた夢ですね。(K・K 引田在住)



能登半島地震に遭遇して

元日、震度7の地震が能登を襲った時、私は、金沢近郊の叔母の家で、親族とともに彼女の仮通夜に集っていた。読経が終わり、住職が参集者に挨拶をはじめた時、複数の携帯電話で一斉に「緊急地震速報」が鳴り、直後、家ごと揺さぶられるような揺れ(震度5強)が来た。壁が波打ち、仏壇のろうそくが踊るようにふらついた。口々に「ろうそく」「々」と叫び、住職は慌ててろうそくに手を伸ばした。

余震が続く中、実家で留守を預かってくれた子どもたちから、津波警報が出たけど百歳超えの祖父と共にどこに避難するかと聞いてきた。確かに実家は海沿いだ。幸い、実家は津波に見舞われることもなく済んだが、震源地・能登の惨状にはただただ、胸がつぶれる。

能登は2007年に震度6強の地震があり、道路の寸断や多くの家屋の倒壊、半倒壊を経験している。その後も小規模な地震がたびたび起きており、こうした巨大地震の可能性も十分予測できたのではないか。地域の高齢化も見据えて、老朽家屋の耐震補強、生活必需品を地域内でまかなう方策など準備できたことは多々あったはずだ。

また初動の遅れも指摘されている。命に係わる初期の救助活動や道路の復旧は人手に頼らざるを得ない面がある。災害時の人員規模は適正だったか、検証が必要であろう。そして今回、地元の不安をさらに増幅したのは志賀原発の存在だ。外部電源の一部喪失、変圧器での油漏れ、そして使用済み核燃料プールでは水があふれた。この日本に原発を置く危険性を今一度思い起こしたい。(H・K 草花在住)

無党派
一人会派

辻よし子・プロフィール

1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で初当選。現在9年目。常任委員会は環境建設委員会。広報広聴委員会委員長。夫、次男、ネコ1匹と草花に暮らす。

変わらないのか、変えようとしらないのか？

『それでも自民党に入れる！』とお義父さんは言うんだよ」と兼業農家のお嫁さんである年下の友人の話。この日の体操サークルが終わった後のしばしの雑談はもっぱら自民党の裏金問題への怒りでした。5年間に5億円って?! 少ない収入の私達から税金を搾り取っていて自分達は陰でポケットマネーをごっそり! そうだろうな~。それでも「野党には任せられない!」と言うのが冒頭のお義父さんの言葉です。下は市議会から上は国会までそんな諦めモードの投票又は棄権が多いのでしょうか。

裏金報道と同日の新聞に『非営利団体向け資金調達ハンドブック』の著者の記事が出ていました。社会の課題解決に取り組むNPOにとって資金集めは悩みの種、その指南本を書いた方です。来ないことを前提のパーティー券を売って楽々ポケットマネーを作り、政治に金はつきものだとおそぶく悪徳政治家と、本当は彼らがやらなければいけない社会の底辺にあえぐ人達に対する支援や援助の仕事を無償で支える為の資金集めに奔走する人々! この余りのギャップに心底腹が立ちます。

「人を幸せにするための政治」という本来の政治の在り方に一步でも近付ける政治家、政党に1票入れる人が増えれば世の中は変わって行くと思います。野党は頼りないと言われるけれど政治の仕組みを悪利用している自公よりましでしょう。

1票でも変える意識を持って投票すれば、たった34%の得票率(2022年参院選)の自民党を倒すことは可能でしょう! この金権政治に対する怒りをぶつけるにはまず投票する事だと改めて強く思いました。

(M・M 館谷在住)



「辻よし子と歩む会」

会員募集中!

年会費:1,000円(カンパ歓迎!)

郵便振替

加入者名 辻よし子と歩む会

口座番号 00140-9-430053

ゆうちょ銀行(店番)〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)

当座 0430053

